



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 名糖産業株式会社 上場取引所 東・名
コード番号 2207 URL <https://www.meito-sangyo.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 三矢 益夫
問合せ先責任者（役職名） 経理部長（氏名） 栗本 正直 (TEL) 052-521-7111
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 2024年12月3日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	13,815	22.4	923	—	1,649	155.5	3,399	626.0
2024年3月期中間期	11,290	9.8	△58	—	645	△1.1	468	17.4

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 2,574百万円(△41.0%) 2024年3月期中間期 4,361百万円(396.4%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	200.88	—
2024年3月期中間期	27.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	82,157	53,412	65.0
2024年3月期	82,247	51,068	62.1

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 53,412百万円 2024年3月期 51,068百万円

(注) 当中間連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	13.00	—	15.00	28.00
2025年3月期	—	17.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	16.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2025年3月期(予想)期末配当金の内訳 創立80周年記念配当 2円00銭

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	28,000	14.8	1,200	417.1	2,400	67.8	4,400	—	260.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期中間期	17,289,308株	2024年3月期	17,277,683株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	361,292株	2024年3月期	360,874株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年3月期中間期	16,921,523株	2024年3月期中間期	16,910,120株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(企業結合等関係)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、景気に緩やかな回復がみられました。一方で、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが国内景気を下押しするリスクとなり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、原材料価格の高騰やエネルギーコストの高止まり、人件費や物流費の上昇などに起因する各種商品の値上げが進み、消費者マインドの改善に足跡が見られるなど、企業にとって厳しい経営環境が続きました。

こうした情勢のもと、当社グループは、企業価値の向上を目指し、「Challenge for the future 未来を創造する挑戦」をスローガンとした、新中期経営計画「MEITO CHALLENGE 2026」をスタートさせました。商品の安全性確保と品質の向上に引き続き注力するとともに、おいしさ・たのしさ・健康を追求した高付加価値商品の提供、中核ブランドの「アルファベットチョコレート」や「ぷくぷくたい」のプロモーションなどを推進してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は、2024年2月に連結子会社化した株式会社おいもやの売上の純増分もあり、前年同期と比べて22.4%増の13,815百万円と大きく上回る結果となりました。

営業損益につきましては、売上高の増加や商品の内容量変更・価格改定による売上原価率の改善に加えて、株式会社おいもやの利益が加わったことや、その他の子会社の業績が好調に推移したことなどにより、923百万円の営業利益となりました。なお、前年同期は58百万円の営業損失でありました。また、経常利益は、営業利益の改善に加えて受取配当金が増加したことなどにより、前年同期と比べて155.5%増の1,649百万円となりました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、特別利益に投資有価証券売却益2,754百万円などを計上しました結果、前年同期と比べて626.0%増の3,399百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

当中間連結会計期間におきましては、原材料価格の高騰やエネルギーコストの高止まりなどにより、一部商品の内容量変更や価格改定を実施しました。主力の菓子部門につきましては、中核ブランドの販売促進プロモーションの取り組みや連結子会社化した株式会社おいもやの主要製品である芋菓子の売上が寄与することなどにより、増収となりました。チョコレート類は、受託商品の売上が減少しましたが、「アルファベットチョコレート」などの売上が増えたことにより前年同期並みの売上となりました。キャンディ類は、受託商品の売上が伸長し増収となりました。そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーリーは、パウムクーヘン類の売上が減少したものの、ゼリー類の売上が大きく伸びたことなどにより増収となりました。

粉末飲料部門につきましては、ココア類の売上が増加しましたが、「ロイヤルミルクティー」や分包アソートタイプの「スティックメイト」シリーズの売上が落ち込み減収となりました。

また、冷蔵部門につきましては、自社商品・受託商品ともに猛暑の影響もあり好調に推移し、増収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前年同期に比べ24.1%増の12,006百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加や商品の内容量変更・価格改定の実施に加え、株式会社おいもやの利益が加わったことや、その他の子会社の業績が好調に推移したことなどにより913百万円の営業利益となりました。なお、前年同期は6百万円の営業利益でありました。

化成品事業

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており、海外企業との販売競争が激化するなか、精力的な営業活動を推進しました。その結果、チーズ用凝乳酵素「レンネット」および脂肪分解酵素「リパーゼ」はともに、海外市場にて売上が拡大し増収となりました。

また、薬品部門につきましては、乳癌転移検出用医療機器で使用される「デキストランマグネタイト」の売上が大きく伸びて増収となりました。

これらの結果、化成品事業の売上高は前年同期に比べ13.3%増の1,670百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の拡大や利益率の高い製品の販売が好調に推移したことなどにより前年同期に比べ67.4%増の450百万円となりました。

不動産事業

不動産事業につきましては、賃貸駐車場を売却したことなどにより、売上高は前年同期に比べ2.3%減の138百万円となり、営業利益は前年同期に比べ7.7%減の46百万円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ90百万円減少し、82,157百万円となりました。これは主に、現金及び預金が増加した一方で、受取手形及び売掛金や投資有価証券が減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ、2,434百万円減少し、28,744百万円となりました。これは主に、短期借入金が減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,343百万円増加し、53,412百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は、65.0%（前連結会計年度末62.1%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,600百万円増加し、7,963百万円となりました。

当中間連結会計期間における営業活動の結果得られた資金は、2,022百万円（前年同期は1,579百万円の収入）となりました。資金の主な増加要因は、税金等調整前中間純利益によるものであり、主な減少要因は、棚卸資産の増加および法人税等の支払いによるものであります。

投資活動の結果得られた資金は、2,953百万円（前年同期は1,040百万円の支出）となりました。資金の主な増加要因は、有価証券及び投資有価証券の売却等および有形固定資産の売却によるものであり、主な減少要因は、有形固定資産の取得によるものであります。

財務活動の結果使用した資金は、3,375百万円（前年同期は507百万円の支出）となりました。資金の主な減少要因は、短期借入金の減少および長期借入金の返済によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、2024年7月16日に公表いたしました2025年3月期の通期連結業績予想を修正しております。

当該予想の修正に関する事項は、本日（2024年11月8日）発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,362	7,963
受取手形及び売掛金	6,119	5,045
有価証券	250	0
商品及び製品	1,756	2,107
仕掛品	674	761
原材料及び貯蔵品	1,507	2,203
その他	331	214
貸倒引当金	△2	△14
流動資産合計	16,998	18,281
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,590	9,491
機械装置及び運搬具(純額)	5,103	4,966
その他(純額)	4,149	4,300
有形固定資産合計	18,843	18,759
無形固定資産		
商標権	1,538	1,492
のれん	499	476
その他	112	123
無形固定資産合計	2,149	2,092
投資その他の資産		
投資有価証券	43,793	42,500
その他	492	551
貸倒引当金	△28	△28
投資その他の資産合計	44,256	43,022
固定資産合計	65,249	63,875
資産合計	82,247	82,157

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,067	3,195
短期借入金	3,070	350
1年内返済予定の長期借入金	765	765
未払法人税等	232	1,222
その他	3,863	3,494
流動負債合計	10,998	9,027
固定負債		
長期借入金	9,079	8,696
繰延税金負債	8,058	7,925
役員退職慰労引当金	45	12
固定資産撤去費用引当金	100	100
退職給付に係る負債	2,668	2,755
その他	228	226
固定負債合計	20,180	19,716
負債合計	31,178	28,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,323	1,335
資本剰余金	86	98
利益剰余金	27,788	30,933
自己株式	△688	△689
株主資本合計	28,509	31,677
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,484	21,697
退職給付に係る調整累計額	74	37
その他の包括利益累計額合計	22,559	21,734
純資産合計	51,068	53,412
負債純資産合計	82,247	82,157

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	11,290	13,815
売上原価	8,932	9,530
売上総利益	2,358	4,284
販売費及び一般管理費		
販売促進費	15	161
運送費及び保管費	875	1,121
給料手当及び賞与	817	976
退職給付費用	20	21
役員退職慰労引当金繰入額	2	1
貸倒引当金繰入額	2	12
減価償却費	40	74
その他	642	991
販売費及び一般管理費合計	2,416	3,360
営業利益又は営業損失(△)	△58	923
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	526	604
投資有価証券売却益	121	1
持分法による投資利益	26	27
企業立地奨励金	95	140
その他	56	20
営業外収益合計	828	795
営業外費用		
支払利息	17	24
固定資産除売却損	102	33
その他	4	11
営業外費用合計	124	69
経常利益	645	1,649
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2,754
固定資産売却益	-	343
関係会社株式売却益	29	-
特別利益合計	29	3,098
税金等調整前中間純利益	674	4,748
法人税、住民税及び事業税	125	1,257
法人税等調整額	81	91
法人税等合計	206	1,349
中間純利益	468	3,399
親会社株主に帰属する中間純利益	468	3,399

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	468	3,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,930	△787
退職給付に係る調整額	△37	△37
その他の包括利益合計	3,893	△824
中間包括利益	4,361	2,574
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,361	2,574

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	674	4,748
減価償却費	843	908
のれん償却額	-	22
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3	33
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△13	△33
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2	12
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	△121	△2,756
関係会社株式売却損益(△は益)	△29	-
有形固定資産除売却損益(△は益)	102	△311
受取利息及び受取配当金	△528	△605
支払利息	17	24
持分法による投資損益(△は益)	△26	△27
企業立地奨励金	△95	△140
売上債権の増減額(△は増加)	200	1,073
棚卸資産の増減額(△は増加)	△875	△1,134
仕入債務の増減額(△は減少)	105	128
未収消費税等の増減額(△は増加)	192	-
その他	△310	△349
小計	143	1,593
利息及び配当金の受取額	533	606
利息の支払額	△17	△25
企業立地奨励金の受取額	95	140
法人税等の支払額	△101	△293
法人税等の還付額	926	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,579	2,022
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	-	△50
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	1,440	3,383
有形固定資産の取得による支出	△2,417	△726
有形固定資産の売却による収入	-	365
固定資産撤去に伴う支出	△1	△0
その他	△61	△18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,040	2,953
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	120	△2,720
長期借入金の返済による支出	△382	△382
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△219	△252
その他	△25	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△507	△3,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	32	1,600
現金及び現金同等物の期首残高	5,351	6,362
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,384	7,963

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

2024年2月9日に行われた株式会社おいもやとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額1,514百万円は、会計処理の確定により1,016百万円減少し、497百万円となっております。のれんの減少は、商標権が1,538百万円、繰延税金負債が521百万円それぞれ増加したことによるものであります。なお、前連結会計年度末の利益剰余金に与える影響はありません。

のれんと商標権の償却方法および償却期間は次の通りとしております。

のれん 11年間にわたる均等償却

商標権 17年間にわたる均等償却

2024年2月9日に行われた株式会社平松商店との企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴い、のれんの金額に修正は生じておりません。

のれんの償却方法および償却期間は次の通りとしております。

のれん 11年間にわたる均等償却

(セグメント情報等)

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,674	1,474	142	11,290	—	11,290
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	9,674	1,474	142	11,290	—	11,290
セグメント利益	6	269	50	325	△384	△58

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2 セグメント利益の合計額は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	食品事業	化成品事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,006	1,670	138	13,815	—	13,815
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,006	1,670	138	13,815	—	13,815
セグメント利益	913	450	46	1,410	△486	923

(注) 1 セグメント利益の調整額は、各セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2 セグメント利益の合計額は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

2024年2月9日に行われた株式会社おいもやと株式会社平松商店との企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間連結会計期間に確定しております。

詳細につきましては、「中間連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」をご参照ください。

(別紙)

名糖産業株式会社

2025年3月期 第2四半期(中間期)決算参考資料

(金額単位：百万円、百万円未満切捨)

1. 中間連結会計期間の実績推移

(連結)

	2020/9月	2021/9月	2022/9月	2023/9月	2024/9月
売上高	10,962	9,741	10,278	11,290	13,815
営業利益	28	125	65	△ 58	923
経常利益	715	679	652	645	1,649
親会社株主に帰属する 四半期純利益	591	4,410	398	468	3,399

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

2. 通期の実績推移と業績予想

(連結)

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期予想
売上高	24,180	21,136	22,727	24,392	28,000
営業利益	403	350	95	232	1,200
経常利益	1,356	1,233	1,132	1,430	2,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,023	1,816	700	△ 703	4,400

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。